

ブローカレッジ&インベストメントバンキング事業

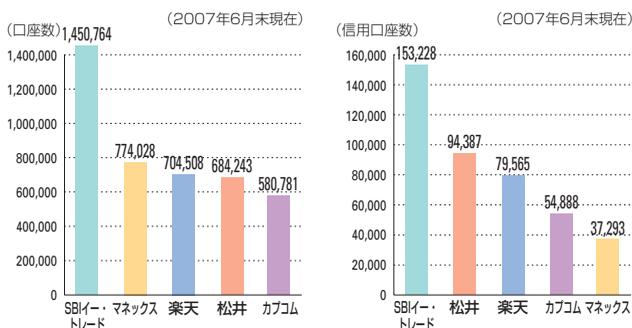
「業界最低水準の手数料体系で業界最高水準のサービスを提供し、株式市場において圧倒的なシェアを獲得」

ブローカレッジ&インベストメントバンキング事業の主要企業

- ・ SBIイー・トレード証券(株) JASDAQ上場 (Code: 8701): オンライン総合証券
- ・ SBI証券(株) 対面型(リアル)証券業(2007年10月1日 SBIイー・トレード証券(株)により、吸収合併の予定)
- ・ SBIフューチャーズ(株) 大証ヘラクレス上場 (Code:8735): オンライン商品先物取引業
- ・ E*TRADE Korea Co., Ltd. 韓国KOSDAQ上場 (Code: 078020): 韓国におけるオンライン証券業

圧倒的顧客基盤の獲得

主要オンラインの証券5社の口座数



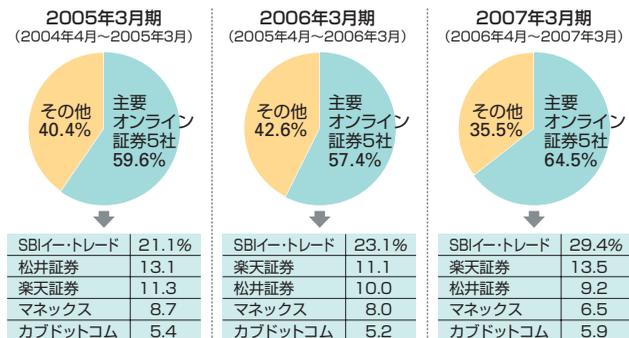
出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
 ※マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。カブドットコム証券は2006年1月1日にMeネット証券と合併

日本におけるオンライン証券の先駆者として顧客中心主義を徹底し、「業界最低水準の手数料体系と業界最高水準のサービス」を提供し続けるSBIイー・トレード証券は、顧客口座数、株式委託売買代金、預り資産において、オンライン専門証券の中でトップの地位を確固たるものとし、個人株式委託売買代金シェアは2007年3月期通期で29.4%と過去最高を記録しました。

このような状況の中、総合証券への発展を目指して、2007年10月1日を期日としたSBI証券との合併を決定し、ネットと対面販売という2つのチャネルの相互補完を目指すと同時に、日本国内で初めてとなる「リアル Based On ネット証券」という新たなビジネスモデルの構築を追求し、これまでネットだけでは販売の拡大が難しかった詳細な説明を求められる商品や、IPO引受等で関係を構築してきた法人顧客向けのビジネスを拡大してまいります。

主要オンライン証券の個人株式委託売買代金シェア

個人株式委託売買代金シェアの推移



出所: 東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
 ※個人株式委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算、マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。
 カブドットコム証券は2006年1月にMeネット証券と合併

オンライン証券業界における揺ぎないポジショニング

SBIイー・トレード証券は、2006年1月にオンライン証券業として初めて顧客口座数100万口座を突破して以降も、順調に顧客基盤を拡大させており、2007年6月末現在では1,450,764口座に達し(前年同月末は1,259,163口座)、オンライン専門証券トップの口座数を有しております。

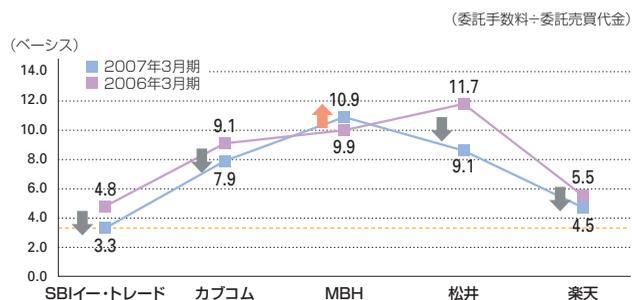
また、2007年6月末現在の信用取引口座数は153,228口座(前年同月末は123,342口座)、預り資産は4兆2千億円(同3兆7千億円)に達し、いずれもオンライン専門証券の中で圧倒的なトップの地位を確立しております。

拡大する株式委託売買代金シェア

不安定な市況の影響を受け各社の株式委託売買代金が減少する中で、SBIイー・トレード証券は、より顧客満足度の高い商品・サービス・手数料体系の提供に努めた結果、株式委託売買代金が2006年3月期比で約10%増加して、2007年3月期通期の個人株式委託売買代金シェアは29.4%(過去最高)となりました。

また、機関投資家や外国人からの委託を含む株式委託売買代金全体においても、対面証券を含めた全証券会社中で第1位となっており、2005年3月期第4四半期に野村証券を抜いて以降、四半期ベースで9期連続でトップの地位を維持し続けております。

主要オンライン証券のベース比較



出所: 各社決算資料、月次開示資料等より当社作成 4月~3月までの累計。委託手数料は単体数値を使用

SBIイー・トレード証券のIPO引受実績

SBIイー・トレード証券は、オンライン専門証券トップの引受件数実績を誇り、IPO(新規株式公開)の引受社数は累計451社、主幹事引受業務は累計4社を数えるなど、順調に拡大を続けております(2007年3月末現在)。

SBI証券との合併後はリアル店舗のチャネルも加え、IPOを果たした企業に対しても、上場後の時価発行増資・売出しなど、セカンダリーファイナンスの取扱いやM&A仲介業務を含めた企業の成長戦略に係る提案をより積極的に行っていく予定です。

収益源の多様化

SBIイー・トレード証券は、圧倒的な顧客基盤を背景に収益源のさらなる多様化を目指しています。

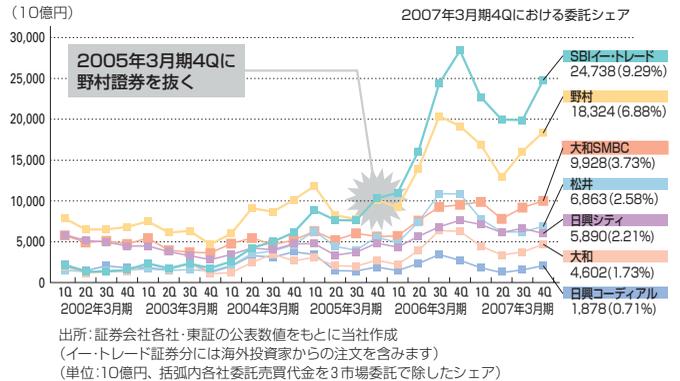
資金運用の効率化による自己融資等の拡大やインターネット信用取引の順調な拡大や金利の上昇により、2007年3月期の金融収益は前期比32.0%増の17,470百万円と、大幅に増加いたしました。

その他にも、外国債券の販売や外国為替保証金取引、先物・オプション取引、貸し株業務等を展開しているほか、海外ETFの取り扱い開始や、投資信託の取り扱い拡充など、今後も顧客ニーズに合った多種多様な商品・サービスの提供により、一層の収益源の多様化を図ってまいります。

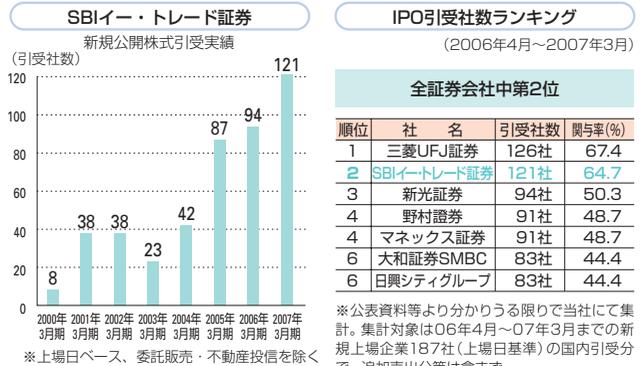
システム構築体制の強化

SBIイー・トレード証券は、オンライン総合証券として取引システムの安定稼働は重要な生命線であるとの認識に立ち、2006年5月に175万口座体制へ、さらに同年7月には200万口座体制に増強いたしました。さらに、2007年7月には、証券バックオフィス構築を手掛けるトレードウィン、モバイルサービスなどのフロントシステム構築を手掛ける 트레이ダーズフィナンシャルシステムの両社を株式交換を通じて完全子会社化いたしました。これにより、これまで以上に強固なシステム開発体制の構築を図ることで、迅速かつ適切なサービス展開が可能となり、業界における競争力をいっそう高めてまいります。

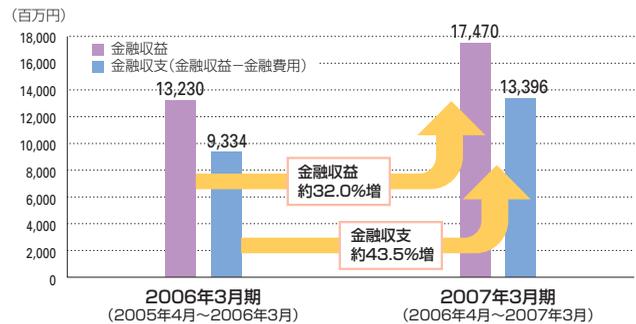
主要証券会社の株式委託売買代金比較



IPO引受実績



金融収益(連結)の拡大



COLUMN

E*TRADE Korea が韓国KOSDAQ市場へ上場

SBIイー・トレード証券の子会社で、韓国市場においてオンライン証券業務を展開するE*TRADE Koreaが、2007年2月21日、韓国KOSDAQ市場に株式上場いたしました。2007年3月末の口座数は135,139口座と前期比で約40%増加し、2007年3月期業績も増収増益となるなど、業容を順調に拡大しております。今後も韓国におけるオンライン総合証券としてさらなる成長を目指してまいります。

2007年3月期 E*TRADE Korea Co., Ltd.業績

	2006年3月期 (2005年4月~2006年3月)	2007年3月期 (2006年4月~2007年3月)	前年同期比 増減率
営業収益	5,202	5,780	+11.1
純営業収益	4,977	5,446	+9.4
営業利益	1,182	1,474	+24.7
経常利益	1,189	1,482	+24.6
当期純利益	922	1,048	+13.7

(単位:百万円、%)

(ウォンからの換算については、月次決算数値をその月の月中平均レートにより円貨に換算し累計)